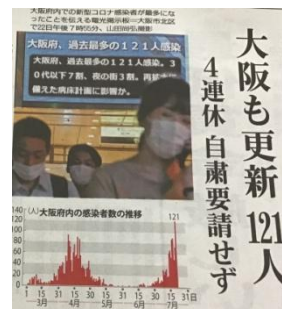


7月も終わりだ

ことは時の流れ、季節の移り変わりが実感しにくい。長らく梅雨がつづき、今日で7月も終わりだ。3月ごろから、コロナ禍により経済社会が大きく揺れ動き、わが生活にも影響をあたえてきた。

写真は毎日新聞 7月23日1面。大阪府の感染者数は7月に入り、とりわけ中旬以降、再び急増している。大阪府医師会の茂松茂人会長は「東京から遅れて大阪で感染者が増えているように見える。新たな波(第2波)ととらえてもいいのではないかとみる。「大阪モデル」では重症者の病床使用率が70%以上にならないと「赤信号」とならないが、「このモデルではかなりひどい状況になってから点灯する」と早めの警戒を呼びかける。

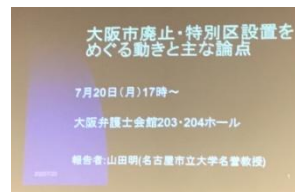


大阪府の吉村知事は、それでも4連休の自粛要請はせず、相変わらず成長戦略に期待を寄せる。大阪維新の会などは、大阪市廃止の是非を問う住民投票を11月1日に強行しようとしている。とりわけ維新代表の松井大阪市長は、コロナ対策よりも住民投票を優先させる姿勢を露わにしている。11月1日だと、あと90日余りだ。「大阪市を守れ大阪・市民交流会」などに参加して、何としても大阪市廃止を阻止するため発信・発言している。コロナ危機のもとで、不要不急の住民投票への批判を強めたい。

6月中旬からは、大阪市立大図書館が利用できるようになった。大阪市立中央図書館も制限付きだが利用できるようになり、定期的に通っている。写真は4人用閲覧机だが、1人しか座れない。利用者も少なく広々とした机を使って、数ヶ月ぶりに地方紙などをゆったりとチェックしている。本当にありがたいことだ。



私にとって7月でいちばんの「しごと」は、大阪弁護士会で講演したことである。レポートしたように、20日17時から「大阪市廃止・特別区設置をめぐる動きと主な論点」と題して講演した。ちょうどコロナの感染者数が急増したところで、直前まで危ぶまれたが、万全の対策をとって開催された。



この講演準備に集中したが、急に「書評」の依頼もあり、原稿に追われる毎日だった。嬉しいことに、大阪市廃止・特別区設置と住民投票についての原稿依頼もあり、作業を進めている。先日、京都で人数限定「対面式」研究会があり、宮本憲一先生のコメントを「生」で拝聴できた。やはり「生」がいい。梅雨明けも近く、猛暑の夏到来であるが、奮闘努力の8月にしていきたい。

(2020年7月31日)